

授業概要

科目名		授業の種類		授業担当	実務経験
人間の理解[A]		講義	演習	実習	中村教子
					有
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期			
15	30	1年 前期		必修	選択
【授業の目的・ねらい】					
「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。					
【授業終了時の達成課題(到達目標)】					
1. 「人間」の理解を図ることにより、対人支援者としての基礎ができる。					
2. 人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性が理解できる。					
3. 介護場面における倫理的課題について対応できるための基礎となる能力を養う。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
1. 本科目のねらいと概要					
2. 「人間」の多面的理解①					
3. 「人間」の多面的理解②					
4. 「人間」の多面的理解③					
5. 「自立」と「自律」					
6. 人間の尊厳と自立①					
7. 人間の尊厳と自立②					
8. 人間の尊厳と自立③					
9. 人権と尊厳					
10. 介護における尊厳の保持・自立支援①					
11. 介護における尊厳の保持・自立支援②					
12. 介護における尊厳の保持・自立支援③					
13. 人権尊重と権利擁護					
14. 自立支援とワーカー					
15. まとめ・定期試験					
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び基準】		
			・提出物、授業態度など合わせて評価。 ・A～Eの5段階評価とし、当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。		

授業概要

科目名		授業の種類		授業担当	実務経験
人間の理解[B]		講義	演習	中村教子	有
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修	選択
15	30	1年 前期			
【授業の目的・ねらい】					
介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。					
【授業終了時の達成課題(到達目標)】					
1. 「人間」の理解を図ることにより、対人支援者としての基礎ができる。					
2. 他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力が養える。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
1. 本科目のねらいと概要					
2. 人間関係の形成（人間関係と心理）					
3. 人間関係の形成（自己覚知）					
4. 人間関係の形成（他者理解）					
5. 人間関係の形成（ラポール）					
6. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの意義）					
7. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの特性）					
8. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの技法）					
9. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの技法）					
10. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの技法）					
11. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの技法）					
12. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションを促す環境）					
13. コミュニケーションの基礎（介護職の基本的態度）					
15. まとめ・定期試験					
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び基準】		
			・ 提出物、授業態度など合わせて評価。 ・ A～Eの5段階評価とし、当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。		

授業概要

科目名		授業の種類		授業担当	実務経験
人間の理解〔C〕		講義	演習	中村教子	有
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修	選択
15	30	1年 前期			
【授業の目的・ねらい】					
介護実践のために必要な人間の理解や、他者への情報伝達に必要な、基礎的なコミュニケーション能力を養うための学習とする。					
【授業終了時の達成課題(到達目標)】					
1. 「人間」の理解を図ることにより、対人支援者としての基礎ができる。					
2. 他者理解や情報の伝達に必要なコミュニケーション能力が養える。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
1. 本科目のねらいと概要					
2. 人間関係の形成（人間関係と心理）					
3. 人間関係の形成（自己覚知）					
4. 人間関係の形成（他者理解）					
5. 人間関係の形成（ラポール）					
6. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの意義）					
7. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの特性）					
8. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの技法）					
9. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの技法）					
10. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの技法）					
11. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションの技法）					
12. コミュニケーションの基礎（コミュニケーションを促す環境）					
13. コミュニケーションの基礎（介護職の基本的態度）					
15. まとめ・定期試験					
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び基準】		
			・ 提出物、授業態度など合わせて評価。 ・ A～Eの5段階評価とし、当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。		

	生活と福祉		
科目担当者	中村教子	実務経験の有無	有
単位数・授業回数	2単位・15回		
配当学年・時期	1年生 前期		
授業の目的・ねらい	地域社会における生活とその支援についての基礎的な知識を身につける。		
到達目標	・個人・家族・地域・社会のしくみと地域における生活の構造について学び、生活と社会とのかかわりを理解する。 ・地域共生社会や地域包括ケアシステムの考え方、制度、施策等を理解する。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	生活の機能について学ぶ。	
	第3回	ライフスタイルの変化について理解する。	
	第4回	家族の機能と役割について理解する。	
	第5回	社会・組織の機能と役割について理解する。	
	第6回	地域、地域社会について把握する。	
	第7回	地域社会における生活支援について把握する。	
	第8回	小括	
	第9回	地域福祉の発達（1）について学ぶ。	
	第10回	地域福祉の発達（2）について理解する。	
	第11回	地域共生社会（1）について学ぶ。	
	第12回	地域共生社会（2）について理解する。	
	第13回	地域包括ケアについて理解する。	
	第14回	小括	
	第15回	総括	
	試験		
使用図書	最新介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版 介護福祉士養成講座編集委員会		
評価方法	・定期試験85% 授業参加姿勢15%		
フィードバック	・講義時に振り返りシートを用いて行う。		
受講生へのメッセージ	・介護福祉士として必要な基本的な知識である。分からない語句、用語、制度等はきちんと調べる事。		

	社会と制度B	
科目担当者	中村教子 実務経験の有無 : 有	
単位数・授業回数	2単位 15回	
配当学年・時期	1年生 後期	
授業の目的・ねらい	・各制度・施策等について基礎的な知識を身につける。 ・各制度・施策等について現状と課題をとらえる。	
到達目標	・各制度・施策等の基本的な考え方としくみを理解する。 ・各制度・施策等の現状と課題をとらえる。	
授業計画	第1回	オリエンテーション
	第2回	社会と生活のしくみ、地域共生社会の実現に向けた制度や施策等について理解を深める。
	第3回	社会保障等について理解を深める。
	第4回	高齢者保健福祉等について理解を深める。
	第5回	介護保険制度等について理解を深める。
	第6回	障害者保険福祉等について理解を深める。
	第7回	障害者総合支援制度等について理解を深める。
	第8回	虐待防止法等について理解する。
	第9回	成年後見制度、日常生活支援事業等について理解する。
	第10回	消費者保護、個人情報保護、第三者評価、苦情解決等について理解する。
	第11回	保険医療に関する制度等について理解する。
	第12回	生活保護法等について理解する。
	第13回	生活困窮者自立支援法等について理解する。
	第14回	地域生活を支援する制度等について理解する。
	第15回	総括
		試験
使用図書	最新介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版 介護福祉士養成講座編集委員会	
評価方法	・定期試験85% 授業参加姿勢15%	
フィードバック	・講義時に振り返りシートを用いて行う。	
受講生へのメッセージ	・介護福祉士として必要な基本的な知識である。予習、復習を行う事。	

科目名	社会と制度C		
科目担当者	中村教子		
単位数・授業回数	2単位 15回 実務経験の有無 : 有		
配当学年・時期	2年生 前期		
授業の目的・ねらい	・各制度・施策等について説明できる。 ・各制度・施策等について現状と課題について理解を深める。		
到達目標	・各制度・施策等の考え方としくみを説明できる。 ・各制度・施策等の現状と課題を重層的にとらえる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション	
	第2回	社会と生活のしくみ等について総合的に理解を深める。	
	第3回	地域共生社会の実現に向けた制度や施策等について重層的に理解を深める。	
	第4回	社会保障等について総合的に理解を深める。	
	第5回	高齢者保健福祉等について総合的に理解を深める。	
	第6回	介護保険制度等について総合的に理解を深める。	
	第7回	障害者保険福祉等について総合的に理解を深める。	
	第8回	障害者総合支援制度等について総合的に理解を深める。	
	第9回	小括	
	第10回	個人の権利を守る制度等について理解を深める。	
	第11回	保険医療に関する制度等について理解を深める。	
	第12回	貧困と生活困窮に関する制度等について重層的に理解を深める。	
	第13回	地域生活を支援する制度等について重層的に理解を深める。	
	第14回	小括	
	第15回	総括	
		試験	
使用図書	最新介護福祉士養成講座2 社会の理解 第2版 介護福祉士養成講座編集委員会		
評価方法	・定期試験85% 授業参加姿勢15%		
フィードバック	・講義時に振り返りシートを用いて行う。		
受講生へのメッセージ	・介護福祉士として必要な知識である。予習、復習を行う事。		

かきくめい 科目名	福祉レクリエーション概論	
かきくたんとうしや 科目担当者	村田 靖子	
たんいすう じゆぎゆみすう 単位数・授業回数	15回	
はいとがくねん じき 配当学年・時期	1年 A組	
じやうぎやく もくぎ 授業科目の目的・ねらい	レクリエーションを通して 支援の目的・方法と心の元気づきの基本を学ぶ	
とうたてくひやう 到達目標	楽しいと心の元気づきの理論の習得	
じやうぎやく 授業計画 (前期)	だい かい 第1回	「レクリエーション」って何? レクリエーション支援とは
	だい かい 第2回	「レクリエーション」と「心の健康」
	だい かい 第3回	レクリエーション支援者の役割 について
	だい かい 第4回	福祉の中のレクリエーション
	だい かい 第5回	コミュニケーションの大切さ・信頼関係づくりの理論
	だい かい 第6回	「楽しい」とは、 / 集団の中のレクリエーション・集団づくりの理解
	だい かい 第7回	行事について
	だい かい 第8回	企画とは、 企画書を書く
	だい かい 第9回	社会参加を通して 心の元気づき
	だい かい 第10回	季節行事を通して 対象者との楽しみ方とコミュニケーション
	だい かい 第11回	アセスメントの考え方・とらえ方
	だい かい 第12回	レクリエーション支援の7原則 と アセスメントが見つける楽しみの可能性
	だい かい 第13回	信頼関係の方法・ホスピタリティ
	だい かい 第14回	レクリエーションゲームの分類と展開
	だい かい 第15回	前期試験
しやうとしよ 使用図書	楽しいとあつた心の元気づき～レクリエーション支援の理論と方法	
ひやうびやうほう 評価方法	筆記試験	
フィードバック		
じやこうせい 受講生へのメッセージ		

アと0)

1 18版

科目名	福祉レクリエーション活動援助法	
科目担当者	村田 靖子	
単位数・授業回数		
配当学年・時期		
授業の目的・ねらい	・レクリエーションを通してホステパリティの大切さを学ぶ ・対象者を内的・外的に理解すること、アレンジの目的・方法を理解する	
到達目標	・レクリエーションを通じた相互理解を深める ・笑顔で人前で話せることができる ・楽しい時間の提供・共有・介助ができる	
授業計画（前期） 後	第1回	○心の元気と世に或るすな ○社会参加を通じた高齢者・障がい者の心の元気作りについて理解する
	第2回	○ホステパリティとは ○あそびからホステパリティを学ぶ
	第3回	○コミュニケーションとホステパリティ ○信頼関係づくりの方法とは
	第4回	○コミュニケーションゲーム - ゲームを通じてコミュニケーションを深める（読み・はけし・歌の共有等）
	第5回	○「伝える」ということ - 不特定多数の人に伝えるにはどうすればよいか。その方法を学ぶ
	第6回	○自主的・主体的に楽しむ力を育てる理論 - 対象者のやる気を引き出すにはどうすればよいかを学ぶ
	第7回	○アイスブレーキングの必要性 - 参加者の心の緊張をほぐす支援の手始めとは
	第8回	○福祉レクリエーション援助のポイント … 対象者にとってどんな援助が好ましいのか理解する ○レクリエーションの治療的意味あい … 「楽しい」の自と自律
	第9回	○アセスメントの重要性とアレンジの考え方 ○ 対象者に合わせたレクとは - 対象者の活動を分析することで、どんなアレンジが良いかを考える
	第10回	○アレンジの目的と方法 ○レクリエーション援助 実施前・実施中の留意点について理解する
	第11回	○レクリエーションプログラムの基本的な考え方とその方法について学ぶ - プログラムの流れを理解する
	第12回	○レクリエーションプログラムの展開とその要点を学ぶ ○グループワーク レクリエーションプログラムをたてる
	第13回	○グループワーク - レクリエーションプログラムの実施発表と評価
	第14回	○グループワーク - レクリエーションプログラムの実施発表と評価、総合評価
	第15回	○定期試験 まとめ
使用図書	(公刊)日本レクリエーション協会：楽しむを通じた心の元気づくり、やさいレクリエーション実践 有斐閣パルクス：福祉文化論 中央法規：介護福祉の基礎知識 上・下	
評価方法		
フィードバック		
受講者へのメッセージ	・レクリエーションプログラムを計画する時に大切なのは、参加者(対象者)の笑顔と 思い浮かべて計画することです。参加者も支援者も共にたのしむことが次へと つながっていくでしょう。	

科目名	発達と老化の理解	
科目担当者	小山サヨ子	実務経験の有無 : 有
単位数・授業回数	必須 1単位 (30時間)	全15回
配当学年・時期	2年 後期	
授業の目的・ねらい	発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化と特徴に関する基礎的知識を養います。	
到達目標	人間の成長と発達に基礎的理解を目標とします。発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化、高齢者の健康に関する基礎的知識を身に付けます	
授業計画（前期）	第1回	ガイダンス
	第2回	老年期の特徴と発達課題 内容：老年期の定義、老化とは、老年期の発達課題
	第3回	老化に伴うところとからだの変化と生活 1 内容：老化に伴う身体的な変化と生活への影響、恒常性維持機能、予備力・回復力・適応力等
	第4回	老化に伴うところとからだの変化と生活 2 内容：老化に伴う身体的な変化と生活への影響、骨格・筋系、神経系、血液・循環器系等
	第5回	老化に伴うところとからだの変化と生活 3 内容：老化に伴う心理的な変化と生活への影響、認知・記憶・知的機能
	第6回	老化に伴うところとからだの変化と生活 4 内容：老化に伴う心理的な変化と生活への影響、パーソナリティ（性格）、動機づけ・適応
	第7回	老化に伴うところとからだの変化と生活 5 内容：老化に伴う社会的な変化と生活への影響、生活上、社会活動の現状と課題、老化理論
	第8回	高齢者と健康 1 内容：健康長寿に向けての健康
	第9回	高齢者と健康 2 内容：高齢者の症状・疾患の特徴
	第10回	高齢者と健康 3 ① 内容：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点、骨格系・筋系、脳・神経系、皮膚・感覚器系
	第11回	高齢者と健康 4 ② 内容：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点、循環器系、呼吸器系、消化器系
	第12回	高齢者と健康 5 ③ 内容：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点、腎・泌尿器系、内分泌・代謝系
	第13回	高齢者と健康 6 ④ 内容：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点、歯・口腔疾患、悪性新生物、感染症
	第14回	高齢者と健康 7 ⑤ 内容：高齢者に多い疾患・症状と生活上の留意点、精神疾患、その他
	第15回	まとめ
使用図書	中央法規 介護福祉士養成講座 第12巻 発達と老化の理解	
評価方法	終講試験・積極的な授業参加・提出物を合わせて評価。当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。	
フィードバック		
受講者へのメッセージ		

授業概要

No.1

科目名 にんちしょう　りかい 認知症の理解		授業の種類 講義・演習・実習		授業担当 澤田　奈穂子	
授業回数 30	時間数（単位数） 60	配当学年・時期 1年　全期			必修・選択
【授業のねらい】 認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケア等を理解するための基礎的な知識を習得する。					
【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1. 認知症に関する基礎知識（定義・原因・診断・治療・予防・歴史・ケアの理念）について説明することができる。 2. 中核症状とBPSD（行動・心理症状）の違い、それぞれの症状に応じた適切なケアを説明することができる。 3. 認知症のある人や介護者が置かれている状況を理解し、必要に応じ適切な社会資源に繋げる方法について説明することができる。					
【授業の日程と各回のテーマ・授業内容・授業方法】 1. 本科目のねらいと概要 2. 認知症の基礎的理解 3. 認知症の基礎的理解 4. 認知症の症状・診断・治療・予防 5. 認知症の症状・診断・治療・予防 6. 認知症の症状・診断・治療・予防 7. 認知症の症状・診断・治療・予防 8. 認知症の症状・診断・治療・予防 9. 認知症の症状・診断・治療・予防 10. 認知症ケアの歴史と理念 11. 認知症ケアの歴史と理念 12. 認知症ケアの歴史と理念 13. 認知症ケアの歴史と理念 14. 認知症ケアの歴史と理念 15. まとめ					

16. 認知症ケアの実際
17. 認知症ケアの実際
18. 認知症ケアの実際
19. 認知症ケアの実際
20. 認知症ケアの実際
21. 認知症ケアの実際
22. 認知症ケアの実際
23. 認知症ケアの実際
24. 介護者支援
25. 介護者支援
26. 介護者支援
27. 認知症の人の地域生活支援
28. 認知症の人の地域生活支援
29. 認知症の人の地域生活支援
30. まとめ

【使用テキスト・参考文献】

認知症の理解（中央法規）

【単位認定の方法及び基準】

- ・ 定期テストの結果に、提出物・授業態度、グループワーク等の参加姿勢などを合わせて評価します。
- ・ 上記結果をA～Eの5段階評価とし、学生便覧の成績判定基準に則って成績とします。
- ・ 総合評点60点未満の場合は再試験を行います。

【受講生へのメッセージ】

今後ますます増えていくと予測される認知症への理解と根拠のある支援を学びます。
認知症があってもその人らしい生活が送れるように支援する専門知識を身につけましょう。

※授業計画はあくまで予定であり、進捗度に応じて変更が出る場合があります。

授業概要

科目名		授業の種類		授業担当	実務経験
障害の理解[Ⅰ]		講義	演習	実習	中村教子
					有
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期			
15	30	1 年 前期			必修 選択
【授業の目的・ねらい】					
障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。					
【授業終了時の達成課題(到達目標)】					
1. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢が身につく。					
2. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
1. 本科目のねらいと概要					
2. 障害の基礎的理解（障害の概念）					
3. 障害の基礎的理解（障害者福祉の基本理念）					
4. 障害の基礎的理解（障害者福祉の基本理念）					
5. 障害の医学的側面の基礎的知識（身体障害）					
6. 障害の医学的側面の基礎的知識（身体障害）					
7. 障害の医学的側面の基礎的知識（身体障害）					
8. 障害の医学的側面の基礎的知識（身体障害）					
9. 障害の医学的側面の基礎的知識（精神障害）					
10. 障害の医学的側面の基礎的知識（精神障害）					
11. 障害の医学的側面の基礎知識（知的障害）					
12. 障害の医学的側面の基礎知識（知的障害）					
13. 障害の医学的側面の基礎知識（発達障害）					
14. 障害の医学的側面の基礎知識（難病）					
15. まとめ・試験					
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び基準】		
			・ 提出物、授業態度など合わせて評価。		
			・ A～Eの5段階評価とし、当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。		

授業概要

科目名		授業の種類		授業担当	実務経験
障害の理解〔Ⅱ〕		講義	演習	実習	中村教子
					有
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期		必修	
15	30	1 年 後期		選択	
【授業の目的・ねらい】					
障害のある人の心理や身体機能に関する基礎的知識を習得するとともに、障害のある人の体験を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する。					
【授業終了時の達成課題(到達目標)】					
1. 他者に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢が身につく。					
2. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
1. 本科目のねらいと概要					
2. 障害がある人の心理					
3. 障害がある人の心理					
4. 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響					
5. 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響					
6. 障害に伴う機能の変化と日常生活への影響					
7. 連携と協働（地域におけるサポート体制）					
8. 連携と協働（地域におけるサポート体制）					
9. 連携と協働（チームアプローチ）					
10. 連携と協働（チームアプローチ）					
11. 家族への支援（家族の障害の受容過程での援助）					
12. 家族への支援（家族の介護力の評価）					
13. 家族への支援（家族のレスパイト）					
14. 家族への支援（家族のレスパイト）					
15. まとめ・定期試験					
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び基準】		
			・提出物、授業態度など合わせて評価。		
			・A～Eの5段階評価とし、当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。		

科目名	からだのしくみ基礎	
科目担当者	小山サヨ子	実務経験の有無 : 有
単位数・授業回数	必須 1 単位 (30時間) 全15回	
配当学年・時期		
授業の目的・ねらい	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における、安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できる。	
到達目標	1. 介護実践の根拠が理解できる。 2. 介護を必要とする人の潜在能力を引出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。	
授業計画 (前期)	第 1 回	ガイダンス
	第 2 回	刺激が伝わるしくみ 内容：脳・神経系
	第 3 回	体が動くということ 内容：骨格・筋肉系
	第 4 回	なぜ息をするのか 内容：呼吸器
	第 5 回	心臓の働き 内容：循環器系 1
	第 6 回	血液の働き 内容：循環器系 2
	第 7 回	まとめ 1 内容：第1回から第6回までのまとめ
	第 8 回	上手に食べるということ 内容：口腔
	第 9 回	食べたものはどこへ行くのか 内容：消化器系 (食道～大腸の構造と働き)
	第 10 回	消化のおたすけ隊 内容：消化器系 (肝臓・胆のう・すい臓について)
	第 11 回	おしっこは汚いのか 内容：泌尿器系
	第 12 回	体の調子や性格にも関係するもの 内容：内分泌系 1
	第 13 回	ホルモンの働き 内容：内分泌系 2
	第 14 回	聞く・見る 内容：感覚器系
	第 15 回	まとめ 2 内容：第8回～第14回までのまとめ
使用図書	中央法規 介護福祉士養成講座 第 1 1 巻 ことごとからだのしくみ	
評価方法	終講試験・積極的な授業参加・提出物を合わせて評価。当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。	
フィードバック		
受講者へのメッセージ		

授業概要

科目名		授業の種類		授業担当	実務経験
こころのしくみ		講義	演習	実習	青柳真紀子
					有
授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期			
15	30	1 年 後期		必修	選択
【授業の目的・ねらい】					
介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解できる。					
【授業終了時の達成課題(到達目標)】					
1. 介護実践の根拠が理解できる。					
2. 介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。					
【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】					
1. 本科目のねらいと概要					
2. こころのしくみの理解（人間の欲求の基本的理解）					
3. こころのしくみの理解（人間の欲求の社会的欲求）					
4. こころのしくみの理解（自己概念と尊厳）					
5. こころのしくみの理解（自己への意欲と自己概念）					
6. こころのしくみの理解（自己実現といきがい）					
7. こころのしくみの基礎（こころのしくみに関する諸理論）					
8. こころのしくみの基礎（思考のしくみ）					
9. こころのしくみの基礎（学習・記憶・思考のしくみ）					
10. こころのしくみの基礎（感情のしくみ）					
11. こころのしくみの基礎（意欲・動機づけのしくみ）					
12. こころのしくみの基礎（適応のしくみ）					
13. 死にゆく人のこころのしくみ					
14. 死にゆく人のこころのしくみ					
15. まとめ・定期試験					
【使用テキスト・参考文献】			【単位認定の方法及び基準】		
			・提出物、授業態度など合わせて評価。 ・A～Eの5段階評価とし、当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。		

科目名	からだのしくみ A	
科目担当者	小山サヨ子	実務経験の有無 : 有
単位数・授業回数	必須 1単位	全15回
配当学年・時期	1年 後期	
授業の目的・ねらい	介護実践に必要な知識という観点から、からだところのしくみについての知識を養うことができる。	
到達目標	1. 介護実践の根拠が理解できる。 2. 介護を必要とする人の潜在能力を引出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。	
授業計画（前期）	第1回	ガイダンス 内容：講義内容の説明、病気と健康の概念
	第2回	こころのしくみ 内容：人間の欲求、自己実現、こころのしくみの基礎
	第3回	からだのしくみ 1 内容：からだの区分や名称
	第4回	からだのしくみ 2 内容：生命維持・恒常性のしくみ
	第5回	からだのしくみ 3 内容：ボディメカニクス、機能低下による影響
	第6回	移動に関連したところとからだのしくみ 1 内容：基礎知識、移動行為の生理的意味、基本的な姿勢
	第7回	移動に関連したところとからだのしくみ 2 内容：心身機能が移動に及ぼす影響、重心の移動バランス、歩行のしくみ機能の低下
	第8回	移動に関連したところとからだのしくみ 3 内容：変化の気づきと対応、観察のポイント、医療職との連携のポイント
	第9回	前半のまとめ 確認テスト
	第10回	身支度に関連したところとからだのしくみ 1 内容：基礎知識、身支度の行為の生理的意味
	第11回	身支度に関連したところとからだのしくみ 2 内容：眼、爪、毛髪、舌の構造と機能、口腔ケア、口臭のしくみ
	第12回	身支度に関連したところとからだのしくみ 3 観察のポイント、医療職との連携のポイント 入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 1 基礎知識、清潔保持の生理的意味
	第13回	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 2 内容：機能低下・障がい及ぼす入浴・清潔保持への影響、皮膚、視覚、運動機能、高血圧
	第14回	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみ 3 内容：変化の気づきと対応、からだへの負担、観察のポイント、医療職との連携
	第15回	これまでのまとめ
使用図書	中央法規 介護福祉士養成講座 第11巻 こころとからだのしくみ	
評価方法	終講試験・積極的な授業参加・提出物を合わせて評価。当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。	
フィードバック		
受講者へのメッセージ		

科目名	からだのしくみ B		
科目担当者	小山サヨ子実務経験の有無：有		
単位数・授業回数	必須	1 単位	3 0 時間 全 1 5 回
配当学年・時期	2年 前期		
授業の目的・ねらい	介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮		
到達目標	1. 介護実践の根拠が理解できる。 2. 介護を必要とする人の潜在能力を引出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。		
授業計画（前期）	第 1 回	ガイダンス 講義内容の説明	
	第 2 回	食事に関連したところとからだのしくみ 1 内容：基礎知識、食べることの生理的意味、食欲、1日に必要な栄養素、おいしさを感じる仕組み	
	第 3 回	食事に関連したところとからだのしくみ 2 内容：喉が渇くしくみ、食べるしくみ、食べることに関する機能低下・障がいの原因	
	第 4 回	食事に関連したところとからだのしくみ 3 内容：変化の気づき、医療職との連携	
	第 5 回	排泄に関連したところとからだのしくみ 1 内容：排泄の生理的意味、便尿の性状、量、回数	
	第 6 回	排泄に関連したところとからだのしくみ 2 内容：生成のしくみ、排泄に関する機能低下・障がいの原因	
	第 7 回	排泄に関連したところとからだのしくみ 3 内容：機能低下・障がい及ぼす排泄の影響	
	第 8 回	ここまでのまとめと確認テスト	
	第 9 回	睡眠に関連したところとからだのしくみ 1 内容：すいみんの生理的意味、すいみんに関連したからだの気管	
	第 1 0 回	睡眠に関連したところとからだのしくみ 2 内容：睡眠のしくみ、睡眠時間、リズム	
	第 1 1 回	睡眠に関連したところとからだのしくみ 3 内容：睡眠に関連する機能低下・障がいの原因と影響	
	第 1 2 回	死にゆく人のところとからだのしくみ 1 内容：「死」の捉え方、生物学的・法律的・臨床的の死	
	第 1 3 回	死にゆく人のところとからだのしくみ 2 内容：「死」に対するからだの理解	
	第 1 4 回	死にゆく人のところとからだのしくみ 3 内容：「死」に対するところの理解、医療職との連携	
	第 1 5 回	まとめ	
使用図書	中央法規 介護福祉士養成講座 第 1 1 巻 ところとからだのしくみ		
評価方法	終講試験・積極的な授業参加・提出物を合わせて評価。当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。		
フィードバック			
受講者へのメッセージ			

科目名	介護の基本A	
科目担当者	上野 友紀恵 実務経験の有無 : 有	
単位数・授業回数	必須 2 単位 全 6 0 回	
配当学年・時期	1年生 前後期	
授業の目的・ねらい	介護の成り立ちについて学びを深めることで、介護福祉士に求められる役割について理解する。 「尊厳の保持」「自立支援」という考え方を理解するとともに、要介護者を生活の観点から捉える学習をする。	
到達目標	1. 介護福祉の基本的理念について理解できる。 2. 介護福祉士の倫理について理解することができる。 3. 自立に向けた介護福祉のあり方について理解することができる。	
授業計画（前期）	第 1 回	本科目のねらいと概要
	第 2 回	介護福祉とは ① 介護の成り立ち
	第 3 回	介護福祉とは ② 介護の概念の変遷
	第 4 回	介護福祉とは ③ 介護福祉の基本理念
	第 5 回	介護福祉とは ④ 尊厳を支える介護
	第 6 回	介護福祉とは ⑤ 自立を支える介護・自己決定権
	第 7 回	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士の活動の場と役割
	第 8 回	介護福祉士の役割と機能 地域包括ケアシステム
	第 9 回	介護福祉士の役割と機能 介護予防
	第 1 0 回	介護福祉士の役割と機能 社会福祉士及び介護福祉士法
	第 1 1 回	介護福祉士の役割と機能 心身の状況に応じた介護
	第 1 2 回	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士の義務規定
	第 1 3 回	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士養成カリキュラムの変遷
	第 1 4 回	介護福祉士の役割と機能 介護福祉士を支える団体
	第 1 5 回	前期まとめ
授業計画（後期）	第 1 6 回	自立に向けた介護 ① 自立とは
	第 1 7 回	自立に向けた介護 ② 自立支援の考え方
	第 1 8 回	自立に向けた介護 ③ エンパワメント
	第 1 9 回	自立に向けた介護 ④ 個別ケアの考え方
	第 2 0 回	自立に向けた介護 ⑤ 個別ケアの具体的展開
	第 2 1 回	自立に向けた介護 ⑥ ICFの考え方
	第 2 2 回	自立に向けた介護 ⑦ ICFに基づく利用者のアセスメント
	第 2 3 回	自立に向けた介護 ⑧ リハビリテーションの考え方
	第 2 4 回	自立に向けた介護 ⑨ リハビリテーションの実際
	第 2 5 回	介護を必要とする人の理解
	第 2 6 回	人間の多様性の理解
	第 2 7 回	高齢者の暮らしの実際
	第 2 8 回	生活環境の理解
	第 2 9 回	生活経営と管理
	第 3 0 回	後期まとめ
使用図書	介護の基本Ⅰ（中央法規）	
評価方法	提出物や授業態度等を合わせて評価する。	
フィードバック		
受講者へのメッセージ		

科目名	介護の基本B	
科目担当者	上野 友紀恵 実務経験の有無 : 有	
単位数・授業回数	必須 2 単位 全 6 0 回	
配当学年・時期	2 年生 前期	
授業の目的・ねらい	「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を、生活の観点から捉える為の学習。また、介護におけるチームケア等について理解する。	
到達目標	1. あらゆる介護福祉の活動の場が理解できる。 2. 介護サービス提供のしくみと多職種連携について理解できる。 3. 介護福祉の倫理について理解ができる。	
授業計画（前期）	第 1 回	本科目のねらいと概要
	第 2 回	在宅という介護の場の特性
	第 3 回	ホームヘルプサービス
	第 4 回	デイサービス
	第 5 回	ショートステイ
	第 6 回	グループホーム
	第 7 回	その他の介護サービス
	第 8 回	施設における介護福祉
	第 9 回	障害者福祉施設における介護福祉
	第 1 0 回	障害者福祉施設における介護福祉
	第 1 1 回	介護老人保健施設における介護福祉
	第 1 2 回	介護療養型医療施設における介護福祉
	第 1 3 回	介護福祉士の倫理 ①
	第 1 4 回	介護福祉士の倫理 ②
	第 1 5 回	前期まとめ
授業計画（前期）	第 1 6 回	介護福祉サービスの提供のしくみ
	第 1 7 回	サービスの提供と多職種連携
	第 1 8 回	多職種連携の意義と目的
	第 1 9 回	ネットケア・チームケア
	第 2 0 回	介護保険制度に基づく介護サービスの概要
	第 2 1 回	介護サービス提供のしくみ・ケアマネジメント
	第 2 2 回	季語給付・予防給付
	第 2 3 回	地域支援事業
	第 2 4 回	サービスの報酬と算定基準
	第 2 5 回	障害者総合支援法に基づく介護
	第 2 6 回	その他の制度に基づく介護
	第 2 7 回	地域連携の意義と目的
	第 2 8 回	地域包括支援センターの機能と役割
	第 2 9 回	市町村、都道府県の機能と役割
	第 3 0 回	後期まとめ
使用図書	介護の基本Ⅰ・Ⅱ（中央法規）	
評価方法	提出物や授業態度などを合わせて評価。	
フィードバック		
受講者へのメッセージ		

科目名	介護の基本C	
科目担当者	上野 友紀恵	
単位数・授業回数	必須 2単位 全60回	
配当学年・時期	2年生 後期	
授業の目的・ねらい	「尊厳の保持」「自立支援」の考え方を理解し、「介護を必要とする人」を生活の観点から捉えるための学習。また、介護におけるチームケア等について理解する。	
到達目標	1. 介護場面に共通する基本的な介護の知識・技術が習得できる。 2. リスクマネジメント東両者の安全に配慮した介護を実践する能力を養う。	
授業計画（後期）	第1回	本科目のねらいと概要
	第2回	介護における安全の確保とリスクマネジメント ①
	第3回	介護における安全の確保とリスクマネジメント ②
	第4回	介護における安全の確保 ①
	第5回	介護における安全の確保 ②
	第6回	事故防止 ①
	第7回	事故防止 ②
	第8回	安全対策 ①
	第9回	安全対策 ②
	第10回	セーフティマネジメント ①
	第11回	セーフティマネジメント ②
	第12回	緊急連絡システム ①
	第13回	緊急連絡システム ②
	第14回	店頭・転落防止、骨折防止
	第15回	前期まとめ
授業計画（後期）	第16回	介護における安全とリスクマネジメント ③
	第17回	感染対策
	第18回	感染対策の意義と介護
	第19回	介護予防の基礎知識と技術①
	第20回	介護予防の基礎知識と技術②
	第21回	感染管理 ①
	第22回	衛生管理
	第23回	感染防止（在宅）
	第24回	感染防止（施設）
	第25回	介護従事者の安全①
	第26回	介護従事者の安全②
	第27回	介護従事者の健康管理①
	第28回	介護従事者の健康管理②
	第29回	労働安全対策
	第30回	後期まとめ
使用図書	介護の基本Ⅱ	
評価方法	提出物や授業態度等併せて評価する。	
フィードバック		
受講者へのメッセージ		

授業概要

No.1

科目名 ギジュツ コミュニケーション技術		授業の種類 講義 ・演習・実習	授業担当 上野 友紀恵
授業回数 30	時間数（単位数） 60	配当学年・時期 1年 全期	必修 ・選択
【授業のねらい】 介護を必要とする人への援助的コミュニケーションについて理解するとともに、その家族、他職種とのコミュニケーション能力を身に付ける。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1.介護におけるコミュニケーションの意義・目的を理解できる。 2.介護場面における利用者・家族とのコミュニケーションを理解できる。 3.記録の意味、情報の共有・報告・会議等を理解できる。 4.プロセスレコードの意味・目的・書き方を理解できる。 5.職場におけるチームコミュニケーションを理解し実践できる。 【授業の日程と各回のテーマ・授業内容・授業方法】 1. 本科目のねらいと概要 2. 介護におけるコミュニケーションの基本技術 3. 介護におけるコミュニケーションの基本技術 4. 介護におけるコミュニケーションの基本技術 5. 介護におけるコミュニケーションの基本技術 6. 介護におけるコミュニケーションの基本技術 7. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 8. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 9. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 10. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 11. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 12. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 13. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 14. 対象者の特性に応じたコミュニケーション 15. まとめ			

16. 対象者の特性に応じたコミュニケーション
17. 対象者の特性に応じたコミュニケーション
18. 対象者の特性に応じたコミュニケーション
19. 対象者の特性に応じたコミュニケーション
20. 対象者の特性に応じたコミュニケーション
21. 対象者の特性に応じたコミュニケーション
22. 家族とのコミュニケーション
23. 家族とのコミュニケーション
24. 家族とのコミュニケーション
25. 介護におけるチームのコミュニケーション
26. 介護におけるチームのコミュニケーション
27. 介護におけるチームのコミュニケーション
28. 介護におけるチームのコミュニケーション
29. 介護におけるチームのコミュニケーション
30. まとめ

【使用テキスト・参考文献】

コミュニケーション技術（中央法規）

DVD:聴覚障害を持つ方のコミュニケーション

【単位認定の方法及び基準】

- ・ 定期テストの結果に、提出物・授業態度、グループワーク等の参加姿勢などを合わせて評価します。
- ・ 上記結果をA～Eの5段階評価とし、学生便覧の成績判定基準に則って成績とします。
- ・ 総合評点60点未満の場合は再試験を行います。

【受講生へのメッセージ】

高齢者特有のコミュニケーション障害、さまざまな障害を持つ方へのコミュニケーション、家族とのコミュニケーションなどを理解・実践します。

対人援助の専門職として持つべきコミュニケーション技術を楽しく学びましょう。

※授業計画はあくまで予定であり、進捗度に応じて変更が出る場合があります。

科目名	家事生活支援技術 I		
科目担当者	武田 康代		実務経験の有無 : 有
単位数・授業回数	必須 1 単位 (30 時間) 全 15 回		
配当学年・時期	1 年 前期		
授業の目的・ねらい	介護福祉士の責務を認識し、高齢者や障害者の健康及び健やかな成長のため Q O L の向上を目指すため 衣食住環境における理論と技術を基礎から学ぶ。本科目では、食環境に関して見守ることも含めた適切な 介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識について習得する。		
到達目標	1. 食環境における基礎的な介護の知識・技術を習得することができる。 2. 「おいしく食べる」ことを支える介護について理解することができる。 3. 調理実習で学んだ内容を実践することができる。		
授業計画 (前期)	第 1 回	ガイダンス 食文化・食生活の変化・高齢者の心身と身体機能の変化と栄養 あなたの食事調査・6 つの基礎食品・食物アレルギー等特別な配慮がある場合の聞き取り	
	第 2 回	栄養の基礎知識・高齢者の食事のポイント・低栄養の対策 たんぱく質の摂り方 食事に関する利用者のアセスメント	
	第 3 回	高齢者の食事と調理 だしの旨味・野菜の摂り方 (ビタミン・ミネラル)	
	第 4 回	調理の基本・調理実習室の使い方・衛生管理 簡単なおやつ作り	
	第 5 回	調理の支援とは何か・調理の基本・献立の立て方 だしのとり方 相乗効果 (調理実験)	
	第 6 回	自立に向けた食事の介助 嚥下調整食・寒天・ゼラチン (調理実験)	
	第 7 回	調理実習 一般常食から嚥下調整食への展開 主食・主菜・副菜・汁物 食事バランスガイドの活用方法	
	第 8 回	試食と評価 片麻痺食事介助の理解	
	第 9 回	調理実習 災害時の介護食応用へのバッククッキング かゆの理解 (3 分がゆ・5 分がゆ・7 分がゆ・全かゆ)	
	第 10 回	試食と評価 ソフト食 飲み込みやすさの比較	
	第 11 回	調理実習 嚥下調整食 減塩調理 実技試験 (きゅうりの輪切り) フードプロセッサー ミキサー 調理器具を利用	
	第 12 回	試食と評価 自主献立 献立作成計画 (P l a n)	
	第 13 回	調理実習 自主献立 (80 歳女性・高血圧症候群・塩分制限・義歯) 調理 実施 (D o) 食器の工夫 食事を楽しむための食卓の環境づくり	
	第 14 回	試食 (C h e c k) 評価 改善 (A c t i o n) 自立に向けた家事の介護	
	第 15 回	定期試験・レポート課題の説明と前期の振りかえり 定期試験・レポート課題の内容説明と前期に学んだ内容の振りかえりを行う。	
使用図書	中央法規 介護福祉士養成講座		
評価方法	定期試験 60 % 実技試験 20 % 提出物 20 %		
フィードバック	講義・調理実習時にリアクションペーパーを用いて自由記述にて行う。		
受講者へのメッセージ	自分自身の食生活に興味を持ちましょう。自宅でも料理をする機会を増やしましょう。調理実習時には、エプロン、三角巾、手拭きタオル、布巾 2 枚を持参し、爪は短く切り、頭髮は衛生的に配慮してください。		

7~8 回 2コマ連続で
9~10 回 調理実習と
11~12 回 希望します。
13~14 回

かきめい 科目名	家事生活支援技術Ⅱ	
かき たんとしや 科目担当者	朝比奈さと子	
たんいすう じやぎめいすう 単位数・授業回数	30時間 15回	
ばいとくくわん じき 配当学年・時期	1年 後期	
じやぎめいすう もくてき 授業科目の目的・ねらい	健康・快適・安全な生活を支えるために基本となる知識・技術を学び自立に向けた支援を行うための視点を学ぶ	
どうたてくひやう 到達目標	基礎的な知識・技術の習得	
じやぎめいすう ぜんき 授業計画（前期）	だい かい 第1回	本科目のねらいと概要
	だい かい 第2回	洗濯 被服の材料・汚れ
	だい かい 第3回	被服の取り扱い 洗濯の方法
	だい かい 第4回	繊維製品の表示 洗濯マーク
	だい かい 第5回	洗剤 漂白剤・柔軟剤
	だい かい 第6回	洗いのプロセス・エフ・トラブイル
	だい かい 第7回	衣類・寝具の衛生管理
	だい かい 第8回	高齢者の被服
	だい かい 第9回	衣類の補修 裁縫道具
	だい かい 第10回	裁縫の基礎（実技） 手縫いの基本
	だい かい 第11回	並み縫い まつり縫い
	だい かい 第12回	スナップフック ボタンフック
	だい かい 第13回	など
	だい かい 第14回	まとめ・提出 練習問題
	だい かい 第15回	定期試験
しやうとしや 使用図書	介護福祉士養成講座6 生活支援技術Ⅰ 適宜プリント配布	
ひやうめうほう 評価方法	試験70% 実技・授業態度30%	
フィードバック	個別に実技指導を行います。定期試験の要点について提示などして解説を行います	
じやこうせい 受講生へのメッセージ	仕事だけでなく実生活にも活用してよりよい衣生活をすごして下さい。	

授業概要

No.1

科目名 セイカツシエン ギジュツ キョジュウカンキョウイビ 生活支援技術 居住環境の整備	授業の種類 講義・演習・実習	授業担当 上野 友紀恵	
授業回数 15	時間数（単位数） 30	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択
【授業のねらい】 一人ひとりの生活文化を理解し、安心安全に暮らせる住環境整備の重要性を理解する。 介護保険制度や障害者自立支援制度における住環境整備ついて、基礎的知識を習得する。 福祉用具の種類や利用できる制度を理解する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1. 居住環境について学び、自立に向けた整備の意義等の理解ができる。 2. 高齢者や障害者の住まいに対する問題点に気づき、安心安全で快適な空間整備ができる。 3. 福祉住環境整備の重要性が理解できる。 4. 福祉用具の種類と利活用を学び、バリアフリーやユニバーサルデザインなどを理解する。 5. 住まいの維持・管理の重要性が理解できる。			
【授業の日程と各回のテーマ・授業内容・授業方法】 1. 本科目のねらいと概要 2. 住まいの役割と機能 3. 生活空間 4. 生活空間 5. 生活空間 6. 生活空間 7. 生活空間 8. 居住環境整備における多職種連携 9. 居住環境整備における多職種連携 10. 室内での熱中症 11. 福祉用具の意義 12. 福祉用具の意義 13. 自分の家の図面を描いてみよう 14. 自分の家の図面から問題点を抽出して発表する 15. まとめ			

【使用テキスト・参考文献】

生活支援技術Ⅰ（中央法規）第2章、第4章

DVD:室内で起こる熱中症、住宅改修の事例、福祉用具の種類など

【単位認定の方法及び基準】

- ・ 定期テストの結果に、提出物・授業態度、グループワーク等の参加姿勢などを合わせて評価します。
- ・ 上記結果をA～Eの5段階評価とし、学生便覧の成績判定基準に則って成績とします。
- ・ 総合評点60点未満の場合は再試験を行います。

【受講生へのメッセージ】

家（自分の部屋）は、生活の基盤です。高齢者や障害を持つ方々の中には、基盤である家（部屋）に生活のしづらさを感じている方がいます。

安心安全な生活を支援するために、専門職として提案できる知識を身につけましょう。

資格としては、福祉住環境コーディネーターを目指すのもよいでしょう。（2級を推奨します）

※授業計画はあくまで予定であり、進捗度に応じて変更が出る場合があります。

居住環境の整備

かきくけこ 科目名	せいかつしえんぎじゅつ 生活支援技術 Ⅰ
かきく たんとしや 科目担当者	かわむらち 川村志知
たんいすう じゅぎょういすう 単位数・授業回数	ひっしゅう たんい じかん ぜん かい 必修 3 単位 (90 時間) 全 45 回
はいとがくねん じき 配当学年・時期	ねん ぜんき 1 年 前期
じゅぎょうめく もくでき 授業科目の目的・ねらい	そんげん ほじ かんてん じょうたい ひと じりつ そんちよう せんぎのうりよのひ だ みまも ふく てきせつ かいごぎじゅつ もち あんぜん え 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識について習得する。
とうたつてくひょう 到達目標	1. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術が習得できる。 2. 利用者ができるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力が身につく。
じゅぎょういかく ぜんき 授業計画 (前期)	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつじ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 3 章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P107～ だい せつ じりつ にゅうよくせいけつじ ないよう にゅうよくせいけつほじ こうか りゅういでん 第 1 節 自立した入浴・清潔保持とは 内容：入浴・清潔保持の効果、留意点
	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつじ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 3 章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P112～ だい せつ じりつ む にゅうよくせいけつじ かいご ないよう にゅうおんいじょ こんく ぞくよく まく 第 2 節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 内容：入浴介助 (個浴、特浴、シャワー浴)
	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつじ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 3 章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P112～ だい せつ じりつ む にゅうよくせいけつじ かいご ないよう にゅうおんいじょ こんく ぞくよく まく 第 2 節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 内容：入浴介助 (個浴、特浴、シャワー浴)
	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつじ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 3 章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P112～ だい せつ じりつ む にゅうよくせいけつじ かいご ないよう せいけつほじ かいじょ しゅく ぞくよく せんぼつ 第 2 節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 内容：清潔保持の介助 (手浴、足浴、洗髪)
	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつじ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 3 章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P112～ だい せつ じりつ む にゅうよくせいけつじ かいご ないよう せいけつほじ かいじょ しゅく ぞくよく せんぼつ 第 2 節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 内容：清潔保持の介助 (手浴、足浴、洗髪)
	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつじ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 3 章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P112～ だい せつ じりつ む にゅうよくせいけつじ かいご ないよう にゅうよくかいじりゅういでん にゅうよくひつよう ほじょく 第 2 節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 内容：入浴介助の留意点、入浴に必要な補助具
	だい しょう じりつ む はいせつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 4 章 自立に向けた排泄の介護 ※生活支援技術Ⅱ P161～ だい せつ じりつ はいせつ ないよう はいせつ いちれん なが はいせつほうほう せんたく はいせつかいじょ りゅういでん 第 1・2 節 自立した排泄とは 内容：排泄の一連の流れ、排泄方法の選択、排泄介助の留意点、
	だい しょう じりつ む はいせつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 4 章 自立に向けた排泄の介護 ※生活支援技術Ⅱ P161～ だい せつ じりつ はいせつ ないよう はいせつ いちれん なが はいせつほうほう せんたく はいせつかいじょ りゅういでん はいせつかいじょ ひつよう ほじょく 第 1・2 節 自立した排泄とは 内容：排泄の一連の流れ、排泄方法の選択、排泄介助の留意点、排泄介助に必要な補助具
	だい しょう じりつ む はいせつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 4 章 自立に向けた排泄の介護 ※生活支援技術Ⅱ P161～ だい せつ じりつ はいせつ ないよう はいせつ はいせつ 第 2 節 自立した排泄とは 内容：トイレでの排泄介助、
	だい しょう じりつ む はいせつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 4 章 自立に向けた排泄の介護 ※生活支援技術Ⅱ P161～ だい せつ じりつ はいせつ ないよう はいせつ はいせつかいじょ こんかん 第 2 節 自立した排泄とは 内容：ポータブルトイレでの排泄介助、パット交換
	だい しょう じりつ む はいせつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 4 章 自立に向けた排泄の介護 ※生活支援技術Ⅱ P161～ だい せつ じりつ はいせつ ないよう はいせつ はいせつかいじょ こんかん 第 2 節 自立した排泄とは 内容：ポータブルトイレでの排泄介助、パット交換
	だい しょう じりつ む はいせつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 4 章 自立に向けた排泄の介護 ※生活支援技術Ⅱ P161～ だい せつ じりつ はいせつ ないよう はいせつ はいせつかいじょ こんかん にゅうき き こ べんき 第 2 節 自立した排泄とは 内容：ポータブルトイレでの排泄介助、パット交換、尿器、差し込み便器
	だい しょう じりつ む はいせつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 4 章 自立に向けた排泄の介護 ※生活支援技術Ⅱ P191～ だい せつ じりつ はいせつ ないよう はいせつ はいせつかいじょ しゅめい にゅうしうきんべんしうきん けり 第 2 節 自立した排泄とは 内容：おむつでの排泄介助、おむつ・パットの種類、尿失禁、便失禁、下痢、ストーマ
	だい しょう じりつ む はいせつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 4 章 自立に向けた排泄の介護 ※生活支援技術Ⅱ P191～ だい せつ じりつ はいせつ ないよう じょう はいせつかいじょ めの 第 2 節 自立した排泄とは 内容：ベッド上での排泄介助 (布おむつ)
	だい しょう じりつ む はいせつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第 4 章 自立に向けた排泄の介護 ※生活支援技術Ⅱ P191～ だい せつ じりつ はいせつ ないよう じょう はいせつかいじょ かん 第 2 節 自立した排泄とは 内容：ベッド上での排泄介助 (紙おむつ)
しょうとしょう 使用図書	ちゅうろく かいご ふくしし ようせにょう だい かん せいかつしえんぎじゅつ だい かん せいかつしえんぎじゅつ 中央法規 介護福祉士養成講座 第 6 巻 生活支援技術Ⅰ 第 7 巻 生活支援技術Ⅱ
ひょうげうほう 評価方法	ていき しゃけん じつぎ ていしゅつ ほんこう がくりょくひょうかきじゅん ひょうか 定期試験：50％ 実技テスト：30％ 提出物：レポート20％ 本校の学力評価基準にもとずき評価する。
フィードバック	かくこうもく ひっき いていしゅつかいど 各項目ごとに筆記レポートを提出。理解度を確認する。
じゅこうせい 受講生へのメッセージ	

かもくめい 科目名	せいかつしえんぎじゅつ 生活支援技術Ⅱ	
かもく たんとうしゃ 科目担当者	かわむらち 川村志知	
たんいすう じゅぎょういすう 単位数・授業回数	ひっしゅう たんい 必修 3単位（90時間） ぜん かい 全 45回	
はいとがくねん じき 配当学年・時期	ねん こうき 1年 後期	
じゅぎょうめく もくてき 授業科目の目的・ねらい	そんげん ほじ かんてん じょうたい ひと じりつ そんちよう せんざいのうりやひ だ みまも ふく てきせつ かいごぎじゅつ もち あんぜん え 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立を尊重し、潜在能力を引き出したり、見守ることを含めた適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識について習得する。	
とうたてくひょう 到達目標	1. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術が習得できる。 2. 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力が身につく。	
じゅぎょうめく ぜんき 授業計画（前期）	だい かい 第31回 ⑪-1	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P112～ だい せつ じりつ む にゅうよくせいけつ かいご ないよう せいけつほじ かいじょ しゅよく そくよく せんぱつ 第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 内容：清潔保持の介助（手浴、足浴、洗髪）
	だい かい 第32回 ⑪-2	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P112～ だい せつ じりつ む にゅうよくせいけつ かいご ないよう せいけつほじ かいじょ しゅよく そくよく せんぱつ 第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 内容：清潔保持の介助（手浴、足浴、洗髪）
	だい かい 第33回 ⑪-3	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P112～ だい せつ じりつ む にゅうよくせいけつ かいご ないよう せいけつほじ かいじょ しゅよく そくよく せんぱつ 第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 内容：清潔保持の介助（手浴、足浴、洗髪）
	だい かい 第34回 ⑫-1	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P112～ だい せつ じりつ む にゅうよくせいけつ かいご ないよう せいけつほじ かいじょ せいしき 第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 内容：清潔保持の介助（清拭）
	だい かい 第35回 ⑫-2	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P112～ だい せつ じりつ む にゅうよくせいけつ かいご ないよう せいけつほじ かいじょ せいしき 第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 内容：清潔保持の介助（清拭）
	だい かい 第36回 ⑫-3	だい しょう じりつ む にゅうよくせいけつ かいご せいかつしえんぎじゅつ 第3章 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 ※生活支援技術Ⅱ P112～ だい せつ じりつ む にゅうよくせいけつ かいご ないよう にゅうよくかいじょりゅういそん にゅうよくむつよう ほじや 第2節 自立に向けた入浴・清潔保持の介護 内容：入浴介助の留意点、入浴に必要な補助具
	だい かい 第37回 ⑬-1	だい しょう じりつ む はいせつ かいご じつぎ 第4章 自立に向けた排泄の介護 ※実技テスト だい せつ じりつ はいせつ ないよう はいせつかいじょ こうかん 第2節 自立した排泄とは 内容：ポータブルトイレでの排泄介助、パット交換
	だい かい 第38回 ⑬-2	だい しょう じりつ む はいせつ かいご じつぎ 第4章 自立に向けた排泄の介護 ※実技テスト だい せつ じりつ はいせつ ないよう はいせつかいじょ こうかん 第2節 自立した排泄とは 内容：ポータブルトイレでの排泄介助、パット交換
	だい かい 第39回 ⑬-3	だい しょう じりつ む はいせつ かいご じつぎ 第4章 自立に向けた排泄の介護 ※実技テスト だい せつ じりつ はいせつ ないよう はいせつかいじょ こうかん 第2節 自立した排泄とは 内容：ポータブルトイレでの排泄介助、パット交換
	だい かい 第40回 ⑭-1	だい しょう じりつ む はいせつ かいご じつぎ 第4章 自立に向けた排泄の介護 ※実技テスト だい せつ じりつ はいせつ ないよう じょう はいせつかいじょ めの かみ 第2節 自立した排泄とは 内容：ベッド上での排泄介助（布・紙おむつ）
	だい かい 第41回 ⑭-2	だい しょう じりつ む はいせつ かいご じつぎ 第4章 自立に向けた排泄の介護 ※実技テスト だい せつ じりつ はいせつ ないよう じょう はいせつかいじょ めの かみ 第2節 自立した排泄とは 内容：ベッド上での排泄介助（布・紙おむつ）
	だい かい 第42回 ⑭-3	だい しょう じりつ む はいせつ かいご じつぎ 第4章 自立に向けた排泄の介護 ※実技テスト だい せつ じりつ はいせつ ないよう じょう はいせつかいじょ めの かみ 第2節 自立した排泄とは 内容：ベッド上での排泄介助（布・紙おむつ）
	だい かい 第43回 ⑮-1	だい しょう じりつ む はいせつ かいご しょう 第4章 自立に向けた排泄の介護 ※小テスト だい せつ じりつ はいせつ ないよう はいせつ いちれん なが はいせつほうほう せんたく はいせつかいじょ りゅういそん はいせつかいじょ だようしゅうき 第1・2節 自立した排泄とは 内容：排泄の一連の流れ、排泄方法の選択、排泄介助の留意点、おむつでの排泄介助、尿失禁等
	だい かい 第44回 ⑮-2	だい しょう じんせい さいしゅうだんだん かいご せいかつしえんぎじゅつ 第6章 人生の最終段階における介護 生活支援技術Ⅱ P256～ だい せつ かいご やくわり し じゅう た しょうくしゅ れんげい 第1・2・3節 内容：介護の役割、死の受容、多職種との連携
	だい かい 第45回 ⑮-3	せいかつしえんぎじゅつ 生活支援技術Ⅰ・Ⅱのまとめ
しょうとしょ 使用図書	ちゅうぎょうき かいごふくしし ようせいとうご だい かん せいかつしえんぎじゅつ だい かん せいかつしえんぎじゅつ 中央法規 介護福祉士養成講座 第6巻 生活支援技術Ⅰ 第7巻 生活支援技術Ⅱ	
ひょうげうほう 評価方法	ていましけん じつぎ ていしゅつぶつ ほんこう がくりよくひょうかきじゅん ひょうか 定期試験：50％ 実技テスト：30％ 提出物：レポート20％ 本校の学力評価基準にもとずき評価する。	
フィードバック	かくこうもく ひっき ていしゅつりかいど 各項目ごとに筆記レポートを提出。理解度を確認する。	
じゅこうせい 受講生へのメッセージ		

科目名	生活支援技術 III	
科目担当者	小山 サヨ子	実務経験の有無 : 有
単位数・授業回数	60 ・ 30回	
配当学年・時期	2年 前期	
授業の目的・ねらい	尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力をひきだしたり、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて安全に援助できる技術や知識について習得できる。	
到達目標	1. あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術が習得できる。 2. 利用者ができるだけなじみのある環境で日常生活が送れるよう、ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。	
授業計画（前期）	第1回	本科目のねらいと概要
	第2回	生活支援 介護の原則の再確認
	第3回	生活支援 個別ケア事例検討 ①
	第4回	生活支援 個別ケア事例検討
	第5回	生活支援 個別ケア事例の実技
	第6回	生活支援 個別ケア事例の実技
	第7回	生活支援 個別ケア事例検討 ②
	第8回	生活支援 個別ケア事例検討
	第9回	生活支援 個別ケア事例の実技
	第10回	生活支援 個別ケア事例の実技
	第11回	生活支援 個別ケア事例検討 ③
	第12回	生活支援 個別ケア事例検討
	第13回	生活支援 個別ケア事例の実技
	第14回	生活支援 個別ケア事例の実技
	第15回	生活支援 14回までのまとめ

授業計画（後期）	第 1 6 回	生活支援 個別ケア事例検討 ④
	第 1 7 回	生活支援 個別ケア事例検討
	第 1 8 回	生活支援 個別ケア事例の実技
	第 1 9 回	生活支援 個別ケア事例の実技
	第 2 0 回	終末期の介護
	第 2 1 回	終末期の介護
	第 2 2 回	終末期の介護
	第 2 3 回	終末期の介護
	第 2 4 回	終末期の介護
	第 2 5 回	生活支援 ICFの視点にもとづくアセスメント・事例検討 ①
	第 2 6 回	生活支援 ICFの視点にもとづくアセスメント・事例検討 ②
	第 2 7 回	生活支援 ICFの視点にもとづくアセスメント・事例検討 ③
	第 2 8 回	生活支援 ICFの視点にもとづくアセスメント・事例検討 ④
	第 2 9 回	生活支援 ICFの視点にもとづくアセスメント・事例検討 ⑤
	第 3 0 回	生活支援 生活支援技術Ⅲの振り返り
使用図書	最新 介護福祉士養成講座 8 生活支援技術Ⅲ 第2版	
評価方法	提出物、授業態度・当校学生便覧の成績判定基準に準じる。	
フィードバック		
受講者へのメッセージ	介護実技に参加するときは本校指定のジャージ・上履きを着用。授業は真摯な態度で参加する。	

授業概要

No.1

科目名 カイゴカテイ 介護過程 I		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当 澤田 奈穂子
授業回数 15	時間数（単位数） 30	配当学年・時期 1年 後期	必修・選択
【授業のねらい】 他の科目で学習した知識や技術を統合し、実践的に介護過程の展開を行うための基礎を学ぶ。介護過程の展開に必要な分析力、考察力などの論理的思考と幅広い教養およびチームワークを習得する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 - あらゆる介護場面に共通する、基礎的な介護の知識・技術が習得できる。 - 利用者が可能な限りなじみの環境で日常的な生活が送れるよう、生活部面のアセスメントを行いニーズを把握する。自立支援に資するさまざまなサービスを総合的・計画的に提供できる能力を身につける。 【授業の日程と各回のテーマ・授業内容・授業方法】 - 本科目のねらいと概要 - 介護過程の意義 - 介護過程の意義 - 介護過程の意義 - 介護過程の意義 - 介護過程の目的・目標 - 介護過程の目的・目標 - 介護過程の目的・目標 - 介護過程の目的・目標 - 介護過程の目的・目標 - 介護過程の展開（情報収集） - 介護過程の展開（情報収集） - 介護過程の展開（情報収集） - 介護過程の展開（情報収集） - 介護過程の展開（情報収集） - まとめ			

【使用テキスト・参考文献】

介護過程（中央法規）

【単位認定の方法及び基準】

- ・ 定期テストの結果に、提出物・授業態度、グループワーク等の参加姿勢などを合わせて評価します。
- ・ 上記結果をA～Eの5段階評価とし、学生便覧の成績判定基準に則って成績とします。
- ・ 総合評点60点未満の場合は再試験を行います。

【受講生へのメッセージ】

エビデンスのある介護過程の展開を身につけることは、介護福祉士の専門性を発揮するためにとっても大切なことです。この科目では、利用者の生活の中に潜むニーズやストレングスを見つけたす手法（情報収集）を学び、介護過程Ⅱ・Ⅲにつなげていきましょう。

※授業計画はあくまで予定であり、進捗度に応じて変更が出る場合があります。

介護過程Ⅰ

授業概要

No.1

科目名 カイゴカテイ 介護過程 II		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当 澤田 奈穂子
授業回数 30	時間数（単位数） 60	配当学年・時期 2年 前期	必修・選択
【授業のねらい】 他の科目で学習した知識や技術を統合し、実践的に介護過程の展開を行うための基礎を学ぶ。介護過程の展開に必要な分析力、考察力などの論理的思考と幅広い教養およびチームワークを習得する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1.あらゆる介護場面に共通する、基礎的な介護の知識・技術が習得できる。 2.利用者が可能な限りなじみの環境で日常的な生活が送れるよう、生活部面のアセスメントを行いニーズを把握する。自立支援に資するさまざまなサービスを総合的・計画的に提供できる能力を身につける。			
【授業の日程と各回のテーマ・授業内容・授業方法】 1. 本科目のねらいと概要 2. 介護過程の展開（情報収集） 3. 介護過程の展開（情報収集） 4. 介護過程の展開（情報収集） 5. 介護過程の展開（情報収集） 6. 介護過程の展開（情報収集） 7. 介護過程の展開（アセスメント） 8. 介護過程の展開（アセスメント） 9. 介護過程の展開（アセスメント） 10. 介護過程の展開（アセスメント） 11. 介護過程の展開（アセスメント） 12. 介護過程の展開（目標のとらえ方） 13. 介護過程の展開（目標のとらえ方） 14. 介護過程の展開（目標のとらえ方） 15. 介護過程の展開（目標のとらえ方）			

16. 介護過程の展開（計画）
17. 介護過程の展開（計画）
18. 介護過程の展開（計画）
19. 介護過程の展開（計画）
20. 介護過程の展開（計画）
21. 介護過程の展開（計画）
22. 介護過程の展開（事例検討）
23. 介護過程の展開（事例検討）
24. 介護過程の展開（事例検討）
25. 介護過程の展開（事例検討）
26. 介護過程の展開（事例検討）
27. 介護過程の展開（事例検討）
28. 介護過程の展開（事例検討）
29. 介護過程の展開（事例検討）
30. まとめ

【使用テキスト・参考文献】

介護過程（中央法規）

【単位認定の方法及び基準】

- ・ 定期テストの結果に、提出物・授業態度、グループワーク等の参加姿勢などを合わせて評価します。
- ・ 上記結果をA～Eの5段階評価とし、学生便覧の成績判定基準に則って成績とします。
- ・ 総合評点60点未満の場合は再試験を行います。

【受講生へのメッセージ】

エビデンスのある介護過程の展開を身につけることは、介護福祉士の専門性を発揮するためにとっても大切なことです。この科目では、利用者情報を整理し、ニーズに合った計画を立て実践します。実践してみて良かった点や改善が必要な点を見つけ出します。学習を重ねて介護過程Ⅲにつなげていきましょう。

授業概要

No.1

科目名 カイゴカテイ 介護過程 III		授業の種類 講義・演習・実習	授業担当 澤田 奈穂子
授業回数 30	時間数（単位数） 60	配当学年・時期 2年 後期	必修・選択
【授業のねらい】 他の科目で学習した知識や技術を統合し、実践的に介護過程の展開を行うための基礎を学ぶ。介護過程の展開に必要な分析力、考察力などの論理的思考と幅広い教養およびチームワークを習得する。 【授業終了時の達成課題（到達目標）】 1.あらゆる介護場面に共通する、基礎的な介護の知識・技術が習得できる。 2.利用者が可能な限りなじみの環境で日常的な生活が送れるよう、生活部面のアセスメントを行いニーズを把握する。自立支援に資するさまざまなサービスを総合的・計画的に提供できる能力を身につける。			
【授業の日程と各回のテーマ・授業内容・授業方法】 1. 本科目のねらいと概要 2. 介護過程とチームアプローチ 3. 介護過程とチームアプローチ 4. 介護過程とチームアプローチ 5. 介護過程とチームアプローチ 6. 介護過程とチームアプローチ 7. 介護過程とチームアプローチ 8. 介護過程とチームアプローチ 9. 介護過程とチームアプローチ 10. 介護過程の実践的展開 11. 介護過程の実践的展開 12. 介護過程の実践的展開 13. 介護過程の実践的展開 14. 介護過程の実践的展開 15. 介護過程の実践的展開			

16. 介護過程の実践的展開
17. 介護過程の実践的展開
18. 介護過程の実践的展開
19. 介護過程の実践的展開
20. 介護過程の実践的展開
21. 介護過程の実践的展開
22. 介護過程の実践的展開
23. 介護過程の実践的展開
24. 介護過程の実践的展開
25. 介護過程の実践的展開
26. 介護過程の実践的展開
27. 介護過程の実践的展開
28. 介護過程の実践的展開
29. 介護過程の実践的展開
30. まとめ

【使用テキスト・参考文献】

介護過程（中央法規）

【単位認定の方法及び基準】

- ・ 定期テストの結果に、提出物・授業態度、グループワーク等の参加姿勢などを合わせて評価します。
- ・ 上記結果をA～Eの5段階評価とし、学生便覧の成績判定基準に則って成績とします。
- ・ 総合評点60点未満の場合は再試験を行います。

【受講生へのメッセージ】

介護過程Ⅰ、Ⅱで学んだことをベースにしてチームによるアプローチを理解していきます。さらに、実際に行った介護過程の展開（実践的展開）を振り返りながらまとめます。実践した事柄はエビデンスに基づいているか、専門職として適切な対応ができたか、過不足はないか等を教員とともに理解・認識していきましょう。

科目名	介護総合演習	
科目担当者	小山 サヨ子	実務経験の有無 : 有
単位数・授業回数	60時間・30回	
配当学年・時期	1年 前期・後期	
授業の目的・ねらい	実習に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等について、 個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。	
到達目標	1, 客観的視点に基づく利用者、施設の理解ができる。 2, 自己の振り返りとともに、あらゆることを整理・考察して 理論的思考と言語化できる能力を身につける。	
授業計画（前期）	第1回	本科目のねらいと概要
	第2回	介護総合演習・介護実習とは何か ①
	第3回	介護総合演習・介護実習とは何か ②
	第4回	実習報告会 2年生の実習報告を聴講し各自の実習の参考とする。
	第5回	個人票・計画書の書き方
	第6回	介護活動の場と介護の特性 ①
	第7回	介護活動の場と介護の特性 ②
	第8回	施設理解 在宅介護 訪問介護・通所介護 ①
	第9回	施設理解 在宅介護 訪問介護・通所介護 ②
	第10回	施設理解 特別養護老人ホーム・介護老人保健施設
	第11回	施設理解 グループホーム・障害者支援施設
	第12回	施設理解 障害者支援施設・医療介護施設
	第13回	実習Ⅰのねらい
	第14回	介護福祉士の職業倫理
	第15回	実習オリエンテーション

授業計画（後期）	第16回	実習後指導 実習記録 ①
	第17回	実習後指導 実習記録 ②
	第18回	実習後指導 実習記録 ③
	第19回	実習報告会（ケース検討） ①
	第20回	実習報告会（ケース検討） ②
	第21回	実習報告会（ケース検討） ③
	第22回	実習前指導 ①
	第23回	実習前指導 ②
	第24回	記録について ①
	第25回	記録について ②
	第26回	共感的・受容的に接する技術 ①
	第27回	共感的・受容的に接する技術 ②
	第28回	共感的・受容的に接する技術 ③
	第29回	個人票・計画書の作成
	第30回	実習オリエンテーション
使用図書		
評価方法	提出物、授業態度、当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。	
フィードバック		
受講者へのメッセージ	利用者1人ひとりの生活リズムや個性を理解するという視点からさまざまな生活の場において個別的な支援を体験することがあります。	

科目名	介護総合演習	
科目担当者	小山 サヨ子	
単位数・授業回数	60 ・ 30回	
配当学年・時期	2年 前期・後期	
授業の目的・ねらい	実習に必要な知識や技術、介護過程の展開能力等について、 個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。	
到達目標	1, 客観的視点に基づく利用者、施設の理解ができる。 2, 自己の振り返りとともに、あらゆることを整理・考察して他者と情報の共有や交換をするための 倫理的思考と言語化できる能力を身につける。	
授業計画（前期）	第1回	実習後指導 ①
	第2回	実習後指導 ②
	第3回	実習報告会 1年生に向けてのまとめ
	第4回	実習報告会 2年生の実習報告会
	第5回	緊急時対応 ①
	第6回	緊急時対応 ②
	第7回	緊急時対応 ③
	第8回	ICFについて ①
	第9回	ICFについて ②
	第10回	ICFについて ③
	第11回	ICFについて ④
	第12回	個人票記入・記録の確認 ①
	第13回	個人票記入・記録の確認 ②
	第14回	実習後指導 ①
	第15回	実習後指導 ②

授業計画（後期）	第 1 6 回	実習後指導 ③
	第 1 7 回	実習後指導 ④
	第 1 8 回	介護過程展開のまとめ ①
	第 1 9 回	介護過程展開のまとめ ②
	第 2 0 回	介護糧の展開のまとめ ③
	第 2 1 回	介護過程展開のまとめ ④
	第 2 2 回	事例研究の意義と目的
	第 2 3 回	事例研究のまとめ ①
	第 2 4 回	事例研究のまとめ ②
	第 2 5 回	事例研究のまとめ ③
	第 2 6 回	事例研究のまとめ ④
	第 2 7 回	事例研究のまとめ ⑤
	第 2 8 回	事例研究発表会 ①
	第 2 9 回	事例研究発表会 ②
	第 3 0 回	まとめ
使用図書	最新 介護福祉士養成講座 10 介護総合演習・介護実習 第2版	
評価方法	提出物、授業態度、当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。	
フィードバック		
受講者へのメッセージ		

科目名	医療的ケア I		
科目担当者	小山サヨ子 実務経験の有無 : 有		
単位数・授業回数	必須	2単位 (60時間)	全30回
配当学年・時期	2年 前期		
授業の目的・ねらい	医療的ケアの一部である喀痰吸引、経管栄養を安全かつ適時・適切に行うための知識、技術を習得する学習とします。清潔保持と感染予防を学習します。		
到達目標	1. 介護職が安全、適切に医療的ケアを実施するために必要な、基本的知識を身につけます。		
授業計画 (前期)	第1回	ガイダンス	
	第2回	人間と社会 内容：医療的ケアを学ぶ目的、医療ニーズ	
	第3回	喀痰吸引と経管栄養の安全な実施 内容：吸引等を安全に学ぶための制度、研修方法、記録・報告・連絡等	
	第4回	医療制度とチーム医療 内容：保健医療に関する制度、連携	
	第5回	介護における生活支援と介護倫理 内容：介護における生活支援を必要とする人に対する尊厳の保持、介護の倫理、医療の倫理	
	第6回	清潔保持と感染予防 1	内容：清潔の意味、感染予防、消毒法
	第7回	清潔保持と感染予防 2	内容：介護職の健康管理、療養環境の清潔
	第8回	健康状態把握 内容：健康とは、正常・異常、急変状態	
	第9回	呼吸の働きと喀痰吸引 1	内容：呼吸のしくみと働き、喀痰吸引とは
	第10回	呼吸の働きと喀痰吸引 2	内容：吸引による危険な状態、人工呼吸器と吸引
	第11回	呼吸の働きと喀痰吸引 3	内容：利用者・家族の気持ちと対応、日常のケア
	第12回	喀痰吸引の実施手順 1	内容：喀痰吸引の必要物品としくみ、清潔保持
	第13回	喀痰吸引の実施手順 2	内容：喀痰吸引の必要物品としくみ、清潔保持
	第14回	喀痰吸引の実施手順 3	内容：吸引の技術と留意点、口腔内吸引
	第15回	喀痰吸引の実施手順 4	内容：吸引の技術と留意点、口腔内吸引
授業計画 (後期)	第16回	喀痰吸引の実施手順 5	内容：吸引の技術と留意点、鼻腔内吸引
	第17回	喀痰吸引の実施手順 6	内容：吸引の技術と留意点、気管カニューレ内吸引
	第18回	喀痰吸引の実施手順 7	内容：吸引の技術と留意点、気管カニューレ内吸引
	第19回	喀痰吸引の実施手順 8	内容：吸引の技術と留意点、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内吸引
	第20回	食事と栄養 1	内容：食事と消化の重要性、食事行為と消化機能
	第21回	食事と栄養 2	内容：経管栄養とは、注入する内容に関する知識
	第22回	食事と栄養 3	内容：起こりうるからだの異常
	第23回	食事と栄養 4	内容：利用者・家族の気持ちと対応、説明と同意、日常生活におけるケア
	第24回	子どもの医療的ケア 内容：医療的ケアが必要な子ども、家族・地域・社会の支援と連携	
	第25回	リスクマネジメントと緊急時の対応 内容：現場とリスクマネジメント、リスクマネジメントプロセス、事故報告、救急蘇生法	
	第26回	経管栄養の実施手順 1	内容：経管栄養の必要物品、挿入部の清潔と消毒
	第27回	経管栄養の実施手順 2	内容：経管栄養の技術と留意点、胃ろう・腸ろう栄養
	第28回	経管栄養の実施手順 3	内容：経管栄養の技術と留意点、胃ろう・腸ろう栄養
	第29回	経管栄養の実施手順 4	内容：経管栄養の技術と留意点、経鼻経管栄養
	第30回	経管栄養の実施手順 5	内容：経管栄養の技術と留意点、経鼻経管栄養
使用図書	中央法規 介護福祉士養成講座 第15巻 医療的ケア		
評価方法	終講試験・積極的な授業参加・提出物を合わせて評価。当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。		
フィードバック			
受講者へのメッセージ			

科目名	医療的ケアⅡ			
科目担当者	小山サヨ子		実務経験の有無　：　有	
単位数・授業回数	必須	2単位（60時間）	全30回	
配当学年・時期	2年　後期			
授業の目的・ねらい	医療的ケアの一部である喀痰吸引、経管栄養を安全かつ適時・適切に行うための知識、技術を習得する。			
到達目標	喀痰吸引・経管栄養・救急蘇生法の技術に関して、シュミレーターを活用して、ひとりで実施できるように知識・技術を習得する。			
授業計画（前期）	第1回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	口腔内吸引	①
	第2回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	口腔内吸引	②
	第3回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	口腔内吸引	③
	第4回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	口腔内吸引	④
	第5回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	口腔内吸引	⑤
	第6回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	口腔内吸引	⑥
	第7回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	鼻腔内吸引	①
	第8回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	鼻腔内吸引	②
	第9回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	鼻腔内吸引	③
	第10回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	鼻腔内吸引	④
	第11回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	気管カニューレ内吸引	①
	第12回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	気管カニューレ内吸引	②
	第13回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	気管カニューレ内吸引	③
	第14回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	気管カニューレ内吸引	④
	第15回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	気管カニューレ内吸引	⑤
授業計画（後期）	第16回	基本演習 内容：喀痰吸引のケア実施	気管カニューレ内吸引	⑥
	第17回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	胃ろう・腸ろう経管栄養	①
	第18回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	胃ろう・腸ろう経管栄養	②
	第19回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	胃ろう・腸ろう経管栄養	③
	第20回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	胃ろう・腸ろう経管栄養	④
	第21回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	胃ろう・腸ろう経管栄養	⑤
	第22回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	胃ろう・腸ろう経管栄養	⑥
	第23回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	経鼻経管栄養	①
	第24回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	経鼻経管栄養	②
	第25回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	経鼻経管栄養	③
	第26回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	経鼻経管栄養	④
	第27回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	経鼻経管栄養	⑤
	第28回	基本演習 内容：経管栄養のケアの実施	経鼻経管栄養	⑥
	第29回	基本演習 内容：救急蘇生法		
	第30回	まとめと確認		
使用図書	中央法規　介護福祉士養成講座　第15巻　医療的ケア			
評価方法	終講試験・積極的な授業参加・提出物を合わせて評価。当校学生便覧の成績判定基準に準ずる。			
フィードバック				
受講者へのメッセージ				

科目名	情報処理Ⅰ	
科目担当者	原 誠二	実務経験の有無 : 有
単位数・授業回数	2 単位 ・（前期）15 回	
配当学年・時期	1 年 ・（前期）	
授業科目の目的・ねらい	情報機器における基本ソフトの使用して、活用する能力を養う	
到達目標	ワードでの文章作成、エクセルの表計算、パワーポイントによるプレゼンテーション、ソフトを利用できる。	
授業計画（前期）	第 1 回	15 回の講義の流れについて。文字入力の基本操作 文章作成①自己紹介文を作成する。（ワードを利用）・PCフォルダーを利用
	第 2 回	文章作成②案内文をつくる。文字入力練習 画像、表の基本（ペイント等の利用）
	第 3 回	文章作成③案内文応用（画像・表の貼り付け）・文字入力練習 表作成の基本①（エクセル利用）
	第 4 回	表計算の基本②（計算・並べ変え）・文字入力練習 文章作成④報告書・提案書の基本
	第 5 回	文書作成⑤報告書・提案書（展開例の工夫）文字入力練習 表の利用（グラフ化、ピックアップ）③
	第 6 回	表の利用（関数 f（X）を利用）⑥・文字入力練習 文章作成⑥レイアウトと印刷・プレゼンテーション（発表）について
	第 7 回	プレゼンテーション①パワーポイント気温（文章を発表に変える） 文章をフローチャート（流れ図）にかえる。デザインする。
	第 8 回	プレゼンテーション②基本作成（文章を発表に変える） プレゼンテーション③
	第 9 回	プレゼンテーション④
	第 10 回	プレゼンテーション⑤ パワーポイント作成⑤-1 流れとデザイン
	第 11 回	パワーポイント作成⑤-2 基本入力と文字の大きさ整列
	第 12 回	パワーポイント作成⑤-3 レイアウトの整列・調整 資料印刷
	第 13 回	プレゼン発表
	第 14 回	プレゼン発表
	第 15 回	プレゼン発表
使用図書	OFFICE2019 実務出版株式会社	
評価方法	文字練習のデーター、ワードのデーター、Excelのデーターパワーポイントデーター評価	
フィードバック	毎回USBにてフィードバックする。	
受講生へのメッセージ	USBメモリーステック等の記録のとれるものを準備してください。	

科目名	福祉レクリエーション概論	
科目担当者	村田 靖子	
単位数・授業回数		
配当学年・時期	2年 前期 ?	
授業の目的・ねらい	・福祉レクリエーションの意味を理解し、コミュニケーションの大切さと支援の目的を学ぶ	
到達目標	・仲間と楽しむ力と共有し育てる ・仲間と同じ目標を持って行動(レクリエーションワーク)とする	
授業計画(前期)	第1回	「レクリエーション」って何? - ひとりから集団へ。新しい仲間との出会いと交流をゲームから学ぶ
	第2回	「レクリエーション」の持つ目的と意味 「健康」とレクリエーションの関わりについて学ぶ
	第3回	「福祉」の意味、「福祉」って何? - 福祉の現場より 介護とレクリエーションの関係について
	第4回	- レクリエーションの基本的考え方と理解する - 心の元気を回復させるレクリエーション
	第5回	- コミュニケーションの大切さ - 自分を知る…自己評価と他己評価
	第6回	- 人間生活を支える3つの領域とレクリエーションの関係を理解する - ノーマライゼーションからQOLの向上へ
	第7回	- 福祉レクリエーションと環境づくり - ひとりひとりに合った楽しい環境をつくるとは
	第8回	- 行事とは何と考える。行事することの目的と効果 - 年度の行事計画を立てる
	第9回	- グループワーク - 前回の各自の行事計画を持ち寄り、グループで話し合いひとつにまとめた計画案として提出
	第10回	- レクリエーションプログラムの企画について考える 「企画」とは何か。「企画」の利便とは
	第11回	「楽しい」の定義。「楽しい」の意味を考える - にじみを通じた心の元気づくりの理解を深める。フロー理論について
	第12回	- 集団の中のレクリエーション支援について理解する マズローの理論 - 集団の心理変化に合わせたレクリエーションプログラムとは
	第13回	- プロセスの考え方、とらえ方について 「対象者」を知るということ とレクリエーション支援
	第14回	- A-PIEプロセスの理解 - レクリエーション援助の7原則を学ぶ
	第15回	定期試験 まいめ
使用図書	(公財)日本レクリエーション協会：楽しさを通じた心の元気づくり・やさしいレクリエーション実践 有斐閣ブックス：福祉文化論 中沢法雄：介護福祉の基礎知識 上・下	
評価方法		
フィードバック		
受講者へのメッセージ	・レクを行うときは笑顔で!! ゆっくりは、より大きな声で、参加者の顔をみながら話しましょう。	

科目名	国試対策Ⅰ	
科目担当者	村川・原 実務経験の有無 : 有	
単位数・授業回数	15回	
配当学年・時期	2学年（2024年度前期）	
授業の目的・ねらい	介護福祉士国家試験に合格する。	
到達目標	介護福祉士国家試験に合格するための知識，解決能力を身につける。	
授業計画（前期）	第1回	オリエンテーション ところとからだのしくみ1 ところとからだの基礎的理解（1） i ところのしくみの理解
	第2回	ところとからだのしくみ2 ところとからだの基礎的理解（2） ii からだのしくみの理解 *リアクションペーパーでキーワードの確認
	第3回	ところとからだのしくみ3 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解（1） i 生活動作に関するところとからだのしくみ
	第4回	ところとからだのしくみ4 生活支援に必要なところとからだのしくみの理解（2） ii 生活に関するところとからだの特徴
	第5回	ところとからだのしくみ5 人間の成長と発達の基礎的理解 i 発達とは ii 老年期の理解と日常生活 iii 高齢者と健康
	第6回	ところとからだのしくみ6 認知症の理解 i 認知症をとりまく環境 ii 認知症の基礎的理解 iii 認知症に伴う心身の変化と日常生活 iv 認知症と地域サポート
	第7回	ところとからだのしくみ7 障害の理解 i 障害の基礎的理解 ii 生活機能障害の理解 iii 障害に伴う心身の変化と日常生活 iv 障害と地域生活支援
	第8回	ところとからだのしくみ8 「ところとからだの理解」における国家試験過去問題の解答と解説
	第9回	介護過程1 介護過程の意義と目的 i 介護過程がめざすもの （生活支援と根拠にもとづいた介護、介護過程の意義、介護過程の目的・基本視点）
	第10回	介護過程2 介護過程の展開（1） i 情報収集とアセスメント ii 生活課題と目標の設定 *リアクションペーパーでキーワードの確認
	第11回	介護過程3 介護過程の展開（2） iii 介護計画の立案 iv 介護計画の実施と評価 *リアクションペーパーでキーワードの確認
	第12回	介護過程4 介護過程の実践的展開 i 介護過程の展開の実際 （アセスメントの実際、評価の実際・・・事例のチェックポイント等）
	第13回	介護過程5 介護過程とチームアプローチ i 介護過程とチームアプローチの意義 ii 介護過程とチームアプローチの実際 *国家試験過去問題の回答と解説
	第14回	生活支援技術1 栄養に関する基礎知識（1） i 栄養素の種類と体内での機能 ii 高齢期の身体機能と栄養 iii 食品の種類と栄養
	第15回	生活支援技術2 栄養に関する基礎知識（2） iv 食中毒予防に関する知識 v そしゃく・嚥下機能の低下と栄養と調理形態 *国家試験過去問題の回答と解説
使用資料	受験ワークブック上・下 （中央法規）	
評価方法	介護福祉士国家試験に合格すること	
介護福祉国家試験 出題基準		
受講者へのメッセージ	①今年度1月に実施される介護福祉士国家試験に合格するための学習を行います。 ②学習は，この講義以上に，個人の学習が重要になります。 ③計画を立て，計画通りに，学習（インプット，アウトプットの反復学習）を行いましょう。	

科目名	国試対策Ⅱ、Ⅲ	
科目担当者	村川真一 実務経験の有無 : 有	
単位数・授業回数	30回	
配当学年・時期	2学年（後期）	
授業の目的・ねらい	介護福祉士国家試験に合格する。	
到達目標	介護福祉士国家試験に合格するための知識、解決能力を身につける。	
授業計画（後期）	第1回	人間の尊厳と理解 福祉思想と日本国憲法
	第2回	人間関係とコミュニケーション 福祉組織マネジメント
	第3回	社会の理解① 人口問題の歴史と理論と国の対応
	第4回	社会の理解② 日本の人口と社会保障
	第5回	社会の理解③ 日本の医療保険制度の背景と現況（保険者と被保険者）
	第6回	社会の理解④ 日本の介護保険制度（成立背景と現在）
	第7回	社会の理解⑤ 日本の介護保険制度（保険者と被保険者）
	第8回	社会の理解⑥ 日本の介護保険制度（在宅サービス）
	第9回	社会の理解⑦ 日本の介護保険制度（施設サービス）
	第10回	社会の理解⑧ 介護保険改正のポイント、地域包括ケアシステム
	第11回	社会の理解⑨ 障害者福祉制度（障害者の定義）
	第12回	社会の理解⑩ 障害者福祉制度（障害福祉サービス）
	第13回	介護の基本① 介護福祉士の倫理と業務
	第14回	介護の基本② 介護福祉現場での感染症予防
	第15回	介護の基本③ 介護福祉現場で従事する際の健康管理や制度（育児介護休業法、労働基準法など）
	第16回	介護の基本④ 介護福祉現場におけるリスクマネジメント
	第17回	生活支援技術① 生活支援の理解、自立に向けた居住環境の整備 生活支援の意義と目的、生活支援と介護過程、多職種との連携、居住環境整備
	第18回	生活支援技術② 自立に向けた移動の介護、自立に向けた身じたくの介護 移動、移乗、身じたく、対象者の状態・状況に応じた留意点
	第19回	生活支援技術③ 自立に向けた食事の介護、自立に向けた入浴・清潔保持の介護 食事、食事介護、入浴、清潔保持、対象者の状態・状況に応じた留意点
	第20回	生活支援技術④ 自立に向けた排泄の介護、自立に向けた家事の介護 排泄の意義・目的、対象者の状態・状況に応じた留意点
	第21回	生活支援技術⑤ 休息・睡眠の介護、人勢の最終段階における介護、福祉用具の意義と活用 睡眠と休息の意義・目的、対象者の上体に応じた留意点、適切な福祉用具の選択
	第22回	認知症の理解① 認知症の基礎的理解 認知症の基礎的理解（認知症の定義・診断基準）、認知症の症状、認知症の予防・治療
	第23回	認知症の理解② 認知症に伴う生活への影響と認知症ケア 認知症に伴う生活への影響、認知症ケアの実際、認知症のある人への関わり
	第24回	認知症の理解③ 連携と協働、家族への支援 地域におけるサポート体制、多職種連携と協働、家族への支援
	第25回	コミュニケーション技術① バイステック、ソーラーなどの人とかかわるための技術
	第26回	コミュニケーション技術② チームマネジメント
	第27回	障害の理解① 身体障害者に対する支援方法（視覚、聴覚音声言語障害、肢体不自由、重複障害）
	第28回	障害の理解② 知的障害者、精神障害者への支援方法
	第29回	障害の理解③ 障害者権利条約、合理的配慮
	第30回	介護福祉士国家試験出題されるかもしれない上半期のニュースについて
使用図書	「介護福祉士国家試験受験ワークブック（上）・（下）」（中央法規）	
評価方法	なし 介護福祉士国家試験に合格することが最大も目的	
受講者へのメッセージ	①今年度1月に実施される介護福祉士国家試験に合格するための学習を行います。 ②学習は、この講義以上に、個人の学習が重要になります。 ③計画を立て、計画通りに、学習（インプット、アウトプットの反復学習）を行いましょう。 ④学内模擬試験として、11月下旬から12月の間に、介護福祉士養成施設協会の全国模擬試験を実施します。 ⑤発達と老化の理解は、授業「発達と老化の理解」と「こころとからだのしくみ」において、行います。	